

2017年9月吉日

各 位

株式会社淀川製鋼所
I R室P Rグループ

「ヨドコウ迎賓館 保存修理工事見学会」開催のお知らせ

当社は兵庫県芦屋市にフランク・ロイド・ライト設計の国指定重要文化財「ヨドコウ迎賓館」（旧山邑家住宅）を所有しており、社会貢献活動の一環として、この建物の保存と活用に取り組んでおります。

現在、屋根の防水を主目的とした修理や設備の充実を図るための工事を2016年10月から2018年11月まで、約2年間の計画でおこなっています。

このたびは、ライト建築の修理という貴重な機会に、部分的ではございますが、普段目にする事のない建物の構造や意匠を間近にご覧いただき、また弊社の取組みや文化財建造物の保存修理について理解を深めていただくため、下記の内容で「ヨドコウ迎賓館 保存修理工事見学会」を実施いたします。

記

<保存修理工事見学会>

【開催場所】 ヨドコウ迎賓館／兵庫県芦屋市山手町3-10 TEL：0797-38-1720
※阪急芦屋川駅から北へ徒歩約10分

【開催日時】 2017年11月3日（金・祝）①10：00～11：30 ②13：30～15：00
2017年11月4日（土） ③10：00～11：30 ④13：30～15：00

【定 員】 4回開催、各回20名（料金は無料です）

【申込方法】 ○下記の必要事項を記載の上、メールおよびFAXでご応募ください。

（必要事項）

①見学希望日および時間 ②代表者のお名前 ③ご住所 ④電話番号

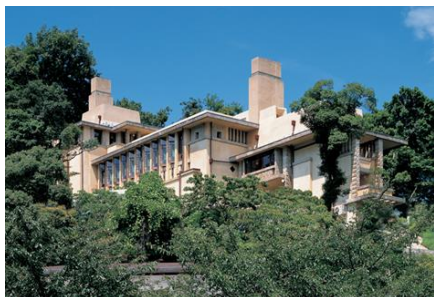
⑤年齢 ⑥参加人数（代表者様含む） ⑦〔FAXで応募される方のみ〕FAX番号

（申込み先）〔メールの場合〕e-mail：kouhouka@yodoko.co.jp

〔FAXの場合〕FAX：06-6282-9176

○応募者多数の場合、ご応募いただいた中から各回20名様を抽選させていただきます。

○応募締め切りは10月19日（木）17：00、当選者様には10月25日（水）までに、申込みをされたアドレスにメールもしくはFAXにてご案内いたします。



<工事前の当館全景>



<工事中の当館全景>
(足場と素屋根のテントに覆われています)

【見学内容および注意事項】

- 館内から工事の状況を見学いただきます（工事足場からの見学はありません）。
- 3階和室および4階バルコニーは限られたエリアでの見学となります。
- 見学会の当日は工事を行っておりませんので、作業そのものは見学できません。
- 当館に昇降設備はありませんので、階段での昇降となります。
- 見学者用の駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

<本件に関するお問い合わせ>

株式会社淀川製鋼所 IR室PRグループ 担当 阪本・越野

住所：大阪市中央区南本町4-1-1

TEL：06-6245-9103 FAX：06-6282-9176 e-mail：kouhouka@yodoko.co.jp

以上

【保存修理工事の概要】

当館におけるこれまでの大規模な修理工事は、1985年（昭和60年）から約3年間かけて行われた保存修理工事と、1995年（平成7年）に発生した阪神・淡路大震災に伴う災害復旧工事（1995～1998年）の計2回実施されました。今回は、それ以来の建物全体に関わる保存修理工事となります。

今回の保存修理工事の主目的は、屋根の防水です。アスファルト防水※1の標準的な耐用年数にほぼ達していることや雨水処理の構造上の問題もあり、防水層を全面改修することとしました。

あわせて、外壁の装飾部分（飾り石）、大谷石の床・幅木、建具など経年変化による老朽箇所の修理も実施いたします。

また、冷暖房能力の向上や建物のライトアップの再開などを予定しており、今後の更なる活用に向けて電気容量の拡大なども行います。

※1：液状の溶解アスファルトと、防水性の高いアスファルトシートを積み重ね、厚みのある防水層をつくる工法

(足場)



トラス構造で補強されている足場

(防水工事)



4階屋上での防水層の除去作業

(大谷石補修工事)



3階和室ベランダでの大谷石敷石の解体作業

(飾り石の補修工事) ※2



補修予定の2種類の飾り石



耐久性を高めるため材料や配合比率を変えた飾り石サンプル

※2：当館の外壁には2種類の飾り石で装飾が施されています。

飾り石は大谷石の砕石、砂、セメントを混ぜて作られたもので、今回の工事では、耐久性を高めるために、多数のサンプルを製作して強度や表面の仕上げ方法を検討しています。

【ヨドコウ迎賓館の解説】（国指定重要文化財、フランク・ロイド・ライト設計）

◆建築家 フランク・ロイド・ライト（Frank Lloyd Wright）

近代建築3大巨匠の一人と称されるライトは、「有機的建築」を標榜し、自然環境と調和する建築を目指しました。

日本では帝国ホテルの設計で有名ですが、住宅建築に多くの傑作を残し、全業績は1000件以上の設計で、実建築は500件近いともいわれる多作の建築家です。その業績のほとんどは母国アメリカでのもので、現在、アメリカ以外では日本にのみ4件あり、ほぼ完全な形で残っているのは、ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）と東京・池袋にある自由学園明日館の2件だけとなっています。

代表作は、落水荘（カウフマン邸）、グッゲンハイム美術館など。

◆ヨドコウ迎賓館の来歴

山邑家住宅の設計は、灘の酒造家である八代目・山邑太左衛門からの依頼で、娘婿である星島二郎が大学時代の友人であった遠藤新を通じてライトに依頼したものです。当時ライトは帝国ホテル建築のために来日しており、遠藤新はライトのもとでホテルの建築に携わっていました。

着工はライトがアメリカに帰国した後の1923年で、実建築はライトの弟子である遠藤新と南信の手によって行われ、1924年に竣工しました。

当社は、1947年に社長邸としてこの住宅を購入し、接客・接待の場としても使用したため、後に「迎賓館」という名称にしました。その後、貸家や独身寮として使用しましたが、老朽化のため、建物を取り壊してマンションを建てる計画を立てました。1971年にこの計画が伝わると建築関係者から保存を求める声が起こり、当社はこれを受けて1972年に計画を撤回して保存を決め、1974年に重要文化財の指定を受け、調査工事・保存修理工事を経て1989年に一般公開を開始しました。

（ヨドコウ迎賓館の来歴）

1918（大正07）年	山邑家の依頼を受け基本設計ができる
1923（大正12）年	着工
1924（大正13）年 2月	上棟 中頃竣工
1935（昭和10）年	実業家の所有となる
1947（昭和22）年 9月	淀川製鋼所の所有となる（社長邸）
1959（昭和34）年	貸家として使用（アメリカ人が住む）
1971（昭和46）年	独身寮として使用
1974（昭和49）年 5月	国の重要文化財に指定される
1981（昭和56）年 7月	調査工事開始
1985（昭和60）年 7月	保存修理工事開始、1988（昭和63）年12月完工
1989（平成元）年 6月	一般公開
1995（平成7）年 1月	阪神・淡路大震災により被害を受け、6月より調査・修理工事開始、1998（平成10）年3月完工
1998（平成10）年 5月	一般公開再開
2016（平成28）年10月	保存修理工事開始
2016（平成28）年11月	約2年間保存修理工事のため一時閉館